

日興ワールドREITファンド

(マザーファンドの投資一任先 : ラサール インベストメント マネージメント セキュリティーズ エルエルシー)

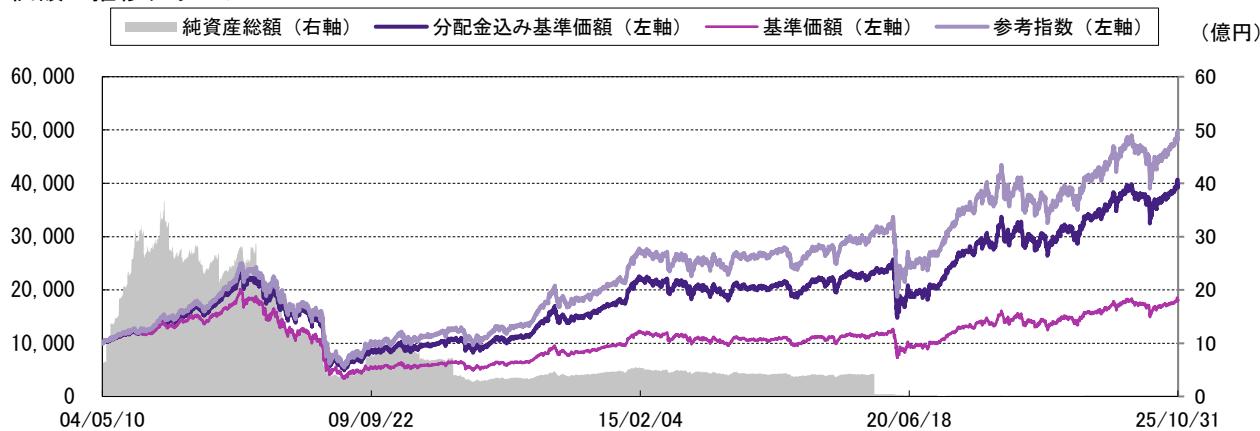
ファンドの概要
設定日 2004年5月11日
償還日 無期限
決算日 2月21日、8月21日 (休業日の場合は翌営業日)

ファンドの特色
1. 世界各国の上場不動産投信（REIT）を中心に投資を行ない、比較的高い分配金利回りを安定的に獲得することをめざします。
2. 原則として、年2回、2月、8月の各21日（休業日の場合は翌営業日）の決算時に収益分配を行なうことをめざします。
3. ラサール インベストメント マネージメント セキュリティーズ エルエルシーが運用を担当します。

運用実績

※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
※このレポートでは基準価額を1口当たりで表示しています。

<基準価額の推移グラフ>



※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※基準価額および参考指標は、設定日の前営業日を10,000として指数化しています。

※参考指標は、「S & P 先進国REIT指数（税引後配当込み、ヘッジなし・円ベース）」です。

参考指標はベンチマークではありません。

※当参考指標に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はS & P社に帰属します。

<基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
当ファンド	2.48%	4.52%	12.39%	-0.02%	29.93%	116.02%	82.30%	295.62%
参考指標	2.65%	5.15%	14.77%	-0.07%	28.30%	103.64%	82.64%	385.59%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意下さい。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

<分配金実績（税引前・1口当たり）>

設定来合計	23・8・21	24・2・21	24・8・21	25・2・21	25・8・21
8,300円	100円	100円	100円	100円	100円

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

基準価額 : 18,057円

純資産総額 : 0.26億円

<資産構成比>

不動産投信	96.6%
現金その他	3.4%

※マザーファンドの投資状況を反映した実質の投資比率です。

<為替ヘッジ率>

原則として為替ヘッジは行いません。

※右記の要因分解は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

<基準価額騰落の要因分解（月次）>

前月末基準価額	17,620円	
当月お支払いした分配金	0円	
要 因	不動産投信	-83円
	アメリカ	(-180円)
	カナダ	(-23円)
	オーストラリア	(-2円)
	欧州	(10円)
	イギリス	(87円)
因 素 替	その他	(25円)
	米ドル	542円
	加ドル	(457円)
	豪ドル	(25円)
	ユーロ	(20円)
	ポンド	(18円)
その他の	その他	(20円)
	小 計	(3円)
	当月末基準価額	-22円
		437円
		18,057円

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



<不動産投信 国別上位投資比率>

	国名	比率
1	アメリカ	75.3%
2	イギリス	7.5%
3	カナダ	4.5%
4	日本	3.8%
5	オーストラリア	3.5%
6	フランス	2.2%
7	ベルギー	1.9%
8	スペイン	0.7%
9	シンガポール	0.6%
10		

※マザーファンドの状況です。

※「比率」は、組入不動産投信時価総額に対する比率です。

<不動産投信 通貨別上位投資比率>

	通貨名	比率
1	アメリカドル	75.3%
2	イギリスポンド	7.5%
3	ユーロ	4.8%
4	カナダドル	4.5%
5	日本円	3.8%
6	オーストラリアドル	3.5%
7	シンガポールドル	0.6%
8		
9		
10		

※マザーファンドの状況です。

※「比率」は、組入不動産投信時価総額に対する比率です。

<不動産投信 セクター別構成比>

セクターナン	比率
特化型	25.0%
産業施設（工場等）	19.0%
小売（商業施設等）	15.3%
ヘルスケア	14.6%
住宅（マンション等）	12.0%
オフィス（ビル等）	5.1%
分散型	5.0%
ホテル&リゾート	1.8%

※マザーファンドの状況です。

※「比率」は、純資産総額に対する比率です。

※分散型とは、複数のセクターの物件を併せ持つ不動産投信のことです。

<組入不動産投信の予想分配金利回り（年率換算）>

ファンド全体	4.40%
地域別	アメリカ 4.20%
	カナダ 4.49%
	オーストラリア 5.13%
	欧州 6.37%
	イギリス 5.03%
	その他 5.06%

※予想分配金利回りは、当社が信頼できると判断したデータに基づき、月末時点での各組入不動産投信の予想分配金利回りを、マザーファンドの純資産総額、または地域別の純資産額に対する各組入不動産投信のウェイトで加重平均した概算値です。信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）等は考慮されておらず、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものでも、将来得られる期待利回りを示すものではありません。

<不動産投信 組入上位10銘柄>（銘柄数 56銘柄）

	銘柄名	国	セクター	比率
1	WELLTOWER INC	アメリカ	ヘルスケア	7.37%
2	EQUINIX INC	アメリカ	特化型	6.96%
3	PROLOGIS INC	アメリカ	産業施設（工場等）	6.28%
4	PUBLIC STORAGE	アメリカ	特化型	3.97%
5	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	小売（商業施設等）	3.48%
6	VENTAS INC	アメリカ	ヘルスケア	3.26%
7	EQUITY RESIDENTIAL-REIT	アメリカ	住宅（マンション等）	2.98%
8	GAMING AND LEISURE PROPERTIE	アメリカ	特化型	2.60%
9	AMERICAN HOMES 4 RENT- A	アメリカ	住宅（マンション等）	2.55%
10	REALTY INCOME CORP	アメリカ	小売（商業施設等）	2.27%

※マザーファンドの状況です。「比率」は、マザーファンドの純資産総額に対する比率です。

※当該銘柄の売買を推奨するものではありません。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

10月のグローバルREIT市場はボラティリティの高い相場展開となりました。現地通貨ベースでは、堅調な第3四半期を経て下落基調となりました。円ベースでは、円安進行が寄与し上昇基調となりました。REIT市場および株式市場全体は、米利下げ期待の強まりが好感されて第3四半期の上昇基調を継続していましたが、米中貿易摩擦の再燃が意識されると市場の重石となりました。米中通商協議の進展を背景に貿易摩擦への懸念が後退すると投資家心理が改善し株式市場全体が大幅に反発しましたが、月末にかけては米連邦準備制度理事会(FRB)による予想外のタカ派的な見通しや、REIT各社の第3四半期決算の好不調混在が市場心理を揺るがし、期間を通じては下落基調となりました。

セクター別パフォーマンスは、第3四半期決算やマクロ要因による複合的な影響を強く受け、一部の堅調なセクターを除いて概ねマイナスとなりました。産業施設セクターは最も好調で、中でも同セクターの米国銘柄は好業績やリーシング活動への楽観的な見通しが支援材料となりました。冷凍冷蔵倉庫セクターは大幅な割安感が意識されて反発基調となりました。特化型セクター(データセンター)およびヘルスケアセクターは、ファンダメンタルズが価格決定に有利な状況が続く中、需要の追い風を受けてグローバルREIT市場全体を上回りました。オフィスセクター、住宅セクター、特化型セクター(個人向け倉庫)は弱含み、小売セクター(ショッピングモール)およびトリプルネットリースセクターは年初来の上昇を一部相殺する形で下落し、グローバルREIT市場全体を下回りました。住宅セクターでは、新規供給の増加や雇用市場の軟化を背景に市場の賃料成長が鈍化して停滞すると、特化型セクター(個人向け倉庫)にもマイナスの影響となりました。ただし、英国では特化型セクター(個人向け倉庫)内の吸収合併の動きに注目が集まる中、好調に推移しました。オフィスセクターは、ライフサイエンスセクターの低迷が下落要因となりました。ライフサイエンスセクターは需要の回復が遅れる中、供給水準は依然として高く、同セクター大手は2026年に向けて厳しい見通しを示唆しました。

米国REIT市場は上昇し、グローバルREIT市場全体と概ね同等水準となりました(以下、地域別パフォーマンスは円ベース)。利下げ期待の強まりや米中通商協議の進展が市場心理を下支えし、期間の大半でグローバルREIT市場全体を上回りましたが、月末にFRBがタカ派寄りの見通しを示したことが市場の懸念材料となりました。セクター別では、産業施設セクター、特化型セクター(データセンター)、冷凍冷蔵倉庫セクター、ヘルスケアセクターが好調でした。

カナダREIT市場は上昇しましたが、グローバルREIT市場全体を下回りました。

大陸欧州REIT市場は上昇しましたが、グローバルREIT市場全体を下回り、年初来のアウトパフォーマンスを一部返上しました。長引くインフレや政治的不確実性が、市場心理の重石となりました。

英国REIT市場は上昇し、グローバルREIT市場全体を上回りました。低迷した時期を経て、足元のアウトパフォーマンスを継続しました。財政状況や予算案を巡る懸念が更に和らぎ、金融環境は引き締め傾向から緩和が進みました。特化型セクター(個人向け倉庫)は、セクター内の吸収合併の噂が市場の注目を集め、顕著なアウトパフォーマーとなりました。

豪州REIT市場は上昇し、グローバルREIT市場全体を上回りました。中央銀行がタカ派寄りの見通しを示す一方で、長引くインフレや逼迫する労働市場を巡る支援策への期待感が市場心理を下支えしました。セクター別のパフォーマンスに大きなばらつきは見られませんでした。

J-REIT市場は上昇し、グローバルREIT市場全体と概ね同等水準となりました。高市首相の就任に対し、同氏が財政支出を重視し日銀に金融緩和を促す政策を実施するとの期待から、J-REITやその他のリスク資産は上昇しました。

香港REIT市場は上昇し、グローバルREIT市場全体を上回りました。シンガポールREIT市場は上昇し、グローバルREIT市場全体を上回りました。より支援的な政策努力や米中通商協議の進展が上昇要因となりました。

◎運用概況

当ファンドでは、投資対象国とセクターの分散投資に努めポートフォリオのリスクをコントロールしつつ、より高いトータルリターンの達成を目指しています。

地域配分については調整を行いました。米国の強気幅を拡大しました。英国の持分を減らし、強気幅をいくらか縮小しました。日本の持分を減らし、弱気幅を拡大しました。大陸欧州の小幅な強気配分、豪州、シンガポールおよび香港の弱気配分を維持しました。

◎今後の見通し

株式市場全体と比較した場合の割安な評価水準、堅調なファンダメンタルズの見通しや新規供給の減少傾向などを背景に、グローバルREIT市場全体を取り巻く環境は概ね前向きであると考えます。

経済データの軟化や中央銀行の支援的な姿勢により、足元の金融環境は緩和しました。金利の短期的な方向性や最終的な水準については不透明感が残るもの、今後金融環境が市場への逆風になることは少ないものと考えます。

内部成長の観点から見ると、不動産ファンダメンタルズの見通しは堅調な推移が見込まれ、また新規供給の減少傾向や需要を牽引するのに十分な経済活動も多くのセクターの好調な推移を下支えするものと期待されます。外部成長の見通しについては、個別企業やセクターによって状況が異なるものの、資本コストについては多くのセクターで概ね改善が見られます。

バリュエーションの観点から見ると、グローバルREITは平均すると純資産価値(NAV)に対して小幅なプレミアム水準で取引される一方で、投資ユニバースのうち米国やヘルスケアなど一部セクターを除く大部分においては引き続き大幅な割安感も見られます。不動産取引については様子見ムードが一服し活動再開の兆候が見られます。またグローバルREIT市場は、足元で回復局面を迎えている株式市場全体との対比において、依然として割安であると考えます。

まとめると、グローバルREIT市場は相対的に魅力的な評価水準となっており、また堅調な期待リターンの実現が可能な株価水準を維持していることから、グローバルREIT市場に対する見通しは概ね前向きなものとなっています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／不動産投信
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	無期限(2004年5月11日設定)
決算日	毎年2月21日、8月21日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行休業日またはオーストラリア証券取引所の休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受け付は行いません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※当ファンダムは、NISAの対象ではありません。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>2.75% (税抜2.5%)</u> 以内
	※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
	※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンダムから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	<u>ファンダムの日々の純資産総額に対し年率1.43% (税抜1.3%)</u>
------------------	--

その他の費用・手数料	監査費用、組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。
------------	---

※投資者の皆様にご負担いただくファンダムの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	: アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
投資顧問会社	: ラサール インベストメント マネージメント セキュリティーズ エルエルシー
受託会社	: みずほ信託銀行株式会社
販売会社	: 販売会社については下記にお問い合わせください。 アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社 [ホームページ] www.amova-am.com [コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項**○リスク情報**

- 投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンダムの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンダムは預貯金とは異なります。
- 当ファンダムは、主に不動産投信を実質的な投資対象としますので、不動産投信の価格の下落や、不動産投信の発行体の財務状況や業績の悪化、不動産の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

不動産投信は、不動産や不動産証券化商品に投資して得られる収入や売却益などを収益源としており、不動産を取り巻く環境や規制、賃料水準、稼働率、不動産市況や長短の金利動向、マクロ経済の変化など様々な要因により価格が変動します。また、不動産の老朽化や立地条件の変化、火災、自然災害などに伴なう不動産の減失・毀損などにより、その価格が影響を受ける可能性もあります。不動産投信の財務状況、業績や市況環境が悪化する場合、不動産投信の分配金や価格は下がり、ファンダムに損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

不動産投信が支払不能や債務超過の状態になった場合、またはそうなることが予想される場合、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。

為替変動リスク

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様に「日興ワールドR E I T ファンド」へのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われるとき、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部戻しに相当する場合があります。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認のうえ、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
S M B C 日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第2251号	日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
			○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。